

■ブルネイについて■

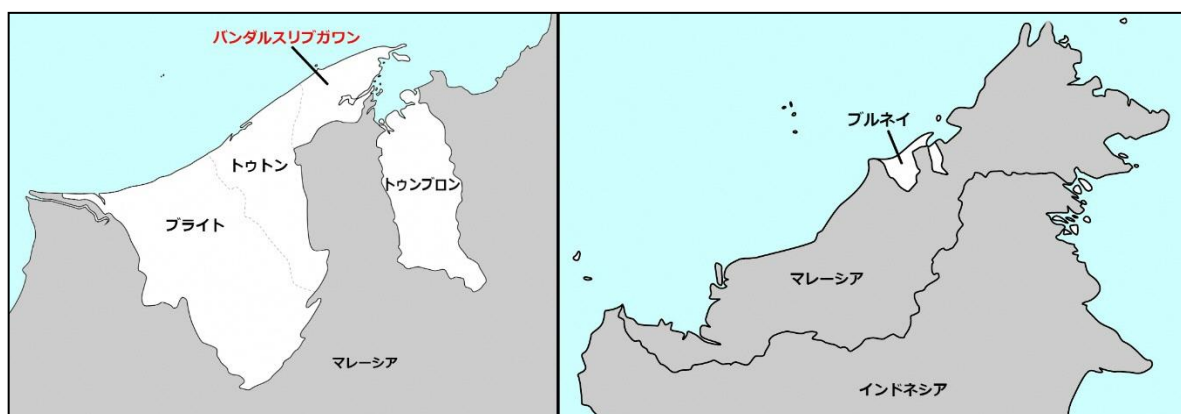
こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの佐藤です。

今月は、アセアン地域において、日本人には少し馴染みが薄いかもしいない国、ブルネイについてご紹介させていただきます。

【ブルネイ基本情報】

(データ出所：JETRO HP)

1. 正式国名：ブルネイ・ダルサラーム国 (Brunei Darussalam)
2. 人口：41.7万人 (2015年、ブルネイ政府発表)
3. 国土：5,765平方キロメートル (国土の60%が熱帯雨林)
4. 首都：バンダルスリブガワン
5. 民族：マレー系66%、中華系10%、その他24%
6. 公用語：マレー語 (英語も普及)
7. 宗教：イスラム教 (国教) (78.8%)、仏教 (8.7%)、キリスト教 (7.8%)、その他 (4.7%)
8. 通貨：ブルネイドル(B\$) ※シンガポールドルと等価＝両国で使用可能



【ブルネイの経済概況】

経済概況	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
実質 GDP 成長率(%)	-	3.74	0.91	△2.13	△2.35	△0.55
1人当たり名目 GDP (USD)	35,437	47,092	47,641	44,540	41,569	30,993
失業率(%)	1.72	1.72	1.7	1.68	1.66	1.86
消費者物価上昇率(%)	0.22	0.14	0.11	0.38	△0.17	△0.45

(データ出所：ILO、IMF)

豊かな天然資源と高い生活水準

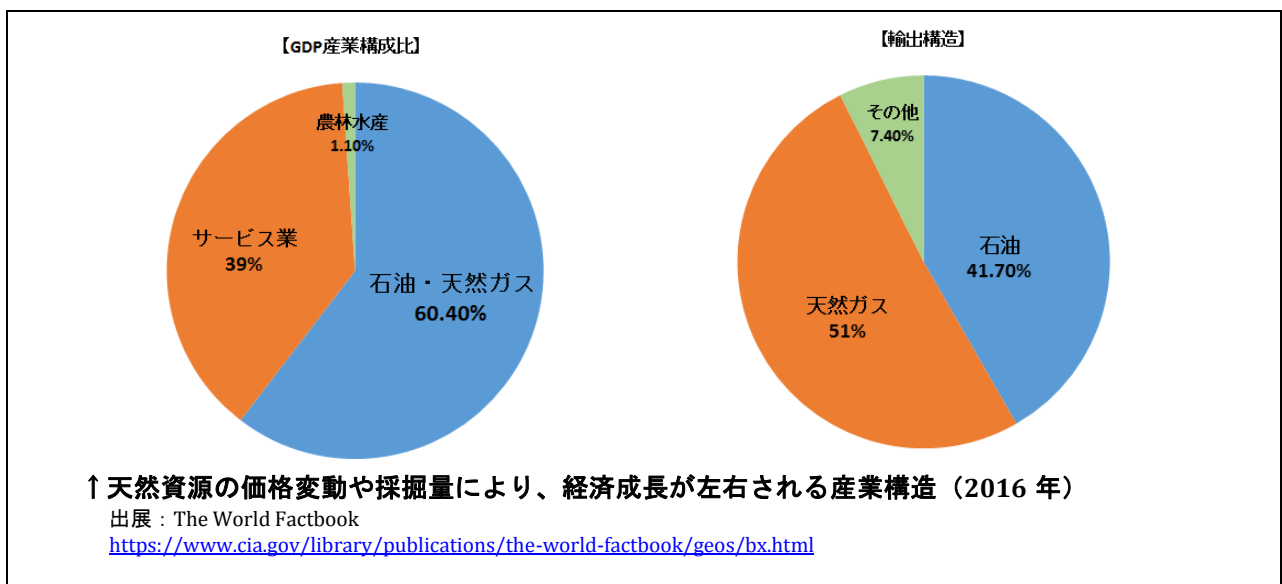
ブルネイは東南アジアのボルネオ島北部に位置し、マレーシアの領土に囲まれた、日本の三重県、あるいは東京都の品川区とほぼ同じ面積の国です。

41万人という人口規模でありながら、天然ガスや石油などの地下資源が豊富で、その輸出によって経済が潤っており、国民一人当たりのGDPはシンガポールに次いでASEAN諸国の中では第2位に位置付けられています。ブルネイ国民であれば、原則、教育費や医療費は無料、その他、消費税や個人所得税もかかりません。また、土地や住居なども国から無料で支給されています。社会福祉が充実していることを背景に、政治・経済面でも非常に安定した国です。

主要産業と構成比

ブルネイの主要産業は石油、石油精製、液化天然ガス、建設、農業、輸送などです。なかでも、石油と天然ガスはGDP全体の60%、輸出の93%を占めています。地下資源に恵まれていることから、その輸出により安定した経済を維持しながらも、こうしたエネルギー資源に過度に依存してきた歴史から、他の産業が育たないといった深刻な問題を抱えています。

更に、2011年以降、原油産出量は減産傾向にあります。ブルネイ政府は、情報通信技術やハラル製造といった、非石油・ガス部門の開発に向け、経済の多角化を目指した成長戦略を推進しています。



ブルネイの投資環境

1.最低払込資本金

特に規定はありません。

2.出資比率

国家食料安全保障に関連する産業と国内資源を基盤とする産業のみ、若干の地元資本の参加が義務づけられています。

その他の産業に関しては、外資 100%の出資による進出が可能です。

優遇措置

海外からのブルネイに対する多額の直接投資も、従来は地下資源開発向けのものが大半を占めていました。しかし前述のとおり、政府は産業の多角化を図るため、国が奨励する分野として「パイオニア産業」のリストを発表し、認定企業に対し税制面等での恩典を与えています。ICT、農産技術関連、製造業、金融業、医療サービス等、多岐に渡る分野への投資に対し、インセンティブのある政策が実施されています。

日系企業の進出状況

ブルネイに進出している日系企業は 2015 年 10 月時点で 13 社、在留邦人数は 185 名です。進出企業の形態としては、総合商社の日本向け LNG（液化天然ガス）輸出事業、ブルネイ政府や現地日系企業向けの建設業、国内・海外輸出向けのハラルフード製造加工業、メタノールの製造・輸出、電力開発事業、大手石油開発向けの油井管供給事業などです。地下資源開発や政府の公共事業に関わるビッグプロジェクトが大半で、一般企業の進出は殆ど見られない状況にあります。国の立地から輸出コストが嵩むことが想定されますし、人口規模が少ないため、内需が見込めないことが大きな要因と思われる。

しかし、ブルネイ政府は産業振興のため、現在、外資の誘致に積極的な状況にあります。製造や加工の分野において高い技術やノウハウを持つ日本の産業は、ブルネイ政府が求める「パイオニア産業」の分野に該当するものも多いと考えられます。また、ブルネイは敬虔なイスラム教国であり、飲食やエステなどにもハラル認証が設置されています。政府が育成すべき重点産業としても、薬品、食品、化粧品の民生品製造業が挙げられています。ブルネイ政府が行っているハラル認証は、世界のイスラム市場においても信頼度の高さが認められていますし、ブルネイ政府もまた、自国が整備したハラルガイドラインに合わせ、海外からの企業誘致による技術導入や産業育成を推進していますので、ハラルの分野においては、一層政府からの支援を受け易い環境にあると思われる。

☆☆タイから便り☆☆

～バンコクから屋台が消えています～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフビューです。

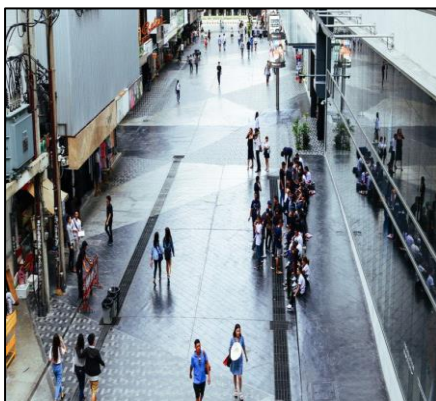
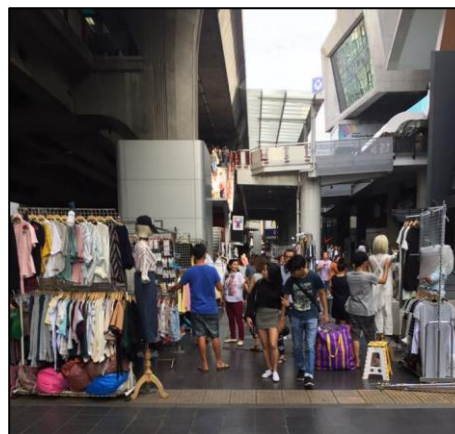
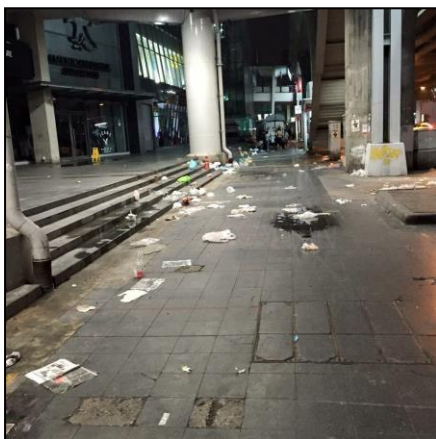
タイと言えば皆さんは、素敵な観光地や美味しいタイ料理のことを想像されるでしょう。特にバンコクのストリートフードは世界的にも有名で、様々な国の観光客が屋台料理を目当てにバンコクを訪れるほどです。皆さんもバンコクへ旅行に来たことがあれば、路面に並んだ屋台で食事をされたことがあるでしょう。手軽で安く、種類も豊富で、旅行者にとってはタイの真髄を味わう良い機会と言えます。串焼きや麺、果物、タイ菓子などの屋台料理を、いつでもどこでも楽しむことができる、24 時間賑やかな街でした。しかし最近、その屋台がこの街からほとんど消えつつあることをご存知でしょうか？

以前より、歩道に迫り出した屋台が弊害となり、通行人が渋滞を起こしたり、歩行者が車道に降りて事故が発生するケースが多発していました。そのため、政府とバンコク市は事故の防

2017年2月

止と街の景観を良くすることを目的に、2014年頃から露店の整理対策に取り組んできました。しかし、露天商を生業としてきた人達にとってこの政策は大きな打撃であり、撤去の延期を嘆願する声も多かったため、ここ2~3年間は撤去が猶予された状態にありました。2017年に入り、今年の1月末までに、6区21エリア164店の強制整理が行われ（無断営業の罰金は1,000~2,000THB）、交通量や歩行者の数に応じて営業時間が制限されたり、24時間の営業禁止となったお店もありました。政府は2017年8月までに、12,444店を収容できる11ヶ所の代替スペースを用意し、移転先の土地のオーナーが撤去を受けた露天商に対し、3~6ヵ月分の賃料を免除するよう交渉を続けています。

いつも昼食を買っていた職場近くの馴染みのお店が無くなり、屋台街の明かりが消えて夜道がひっそりとしてきたことを、私個人としては寂しく感じています。



対策を実施されたサイアムエリアの道路
Photo Credit: <https://pantip.com/topic/35682231>

島根・ビジネスサポート・オフィス Shimane Business Support Office(Bangkok)

担当：佐藤 揺 Tayuta Sato

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-10588

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

お気軽にご連絡ください。

当拠点の運営法人（島根県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

▶ タイ経済指標

項目	単位	2013	2014	2015	2016
GDP 成長率	前年比(%)	2.80	0.9	2.8	3.3(1~9月)
人口*	千人	68,382	67,065	67,293	67,476(10月)
労働者の数*	千人	39,808	38,963	39,165	37,792(12月)
失業率**	%	0.72	0.84	0.89	0.99(12月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	310(17年1月)
	チョンブリー	300	300	300	308(17年1月)
	アユタヤー	300	300	300	308(17年1月)
	ラヨーン	300	300	300	308(17年1月)
賃金: 全国製造業の平均	バーツ	11,066	12,074	12,305	12,402(12月)
インフレ率**	前年比(%)	2.19	1.90	▲0.90	0.19(12月)
中央銀行政策金利*	%	2.25	2.00	1.50	1.50(12月)
普通貯金率**	%	0.68	0.59	0.56	0.47(12月)
ローン金利(MLR)**	%	7.16	6.96	6.75	6.47(12月)
SET 指数*	1975年:100	1,298.7	1,497.7	1,288.0	1,577.3(17年1月)
バーツ/100円**	バーツ	31.53	30.77	28.31	30.87(17年1月)
バーツ/米ドル**	バーツ	30.73	32.48	34.25	35.43(17年1月)
円/米ドル**	円	97.6	105.84	121.0	114.7(17年1月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	1,337,631	884,346	795,905	765,593(12月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,016	1,662	2,237	1,567(11月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	1,027.3	729.4	809.4	816.4(11月)

*期末、**平均